

第12回全国合気道指導者研修会



第12回全国合気道指導者研修会〔主催=日本武道館・合気会、後援=スポーツ庁〕が11月1日(金)～3日(日・祝)の3日間、千葉県・勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、参加者57名が出席して実施された。

本研修会は、全国の中学、高校の教員及び社会体育指導者を対象に、学校における合気道指導の充実を目的として実施されるものである。

1日目(11月1日)

開講式では、はじめに植芝守央合気会理事長が「中学校授業における合気道の採用校は、現在100校近くまで増えていますが、全体としてはまだまだこれからです。そのためには、このような研修会の充実を地道な形で少しずつ図っていくことが効果的だと思います。本部道場指導部としても、多くの方に理解できるような内容を目指し、日々研鑽しておりますので、是非、皆様方も自分のものにしていただきたいと思います」と挨拶した。

続けて、片岡正徳日本武道館事務次長が「本研修会は学校教育における合気道指導の指導法に関する実技と講義を行いながら、学校における合気道指導の充実に資することを目的としています。各々が技能と資質の向上を図りながら、本研修会を有意義に過ごしていただきたいと思います」と挨拶を述べた。



植芝守央
合気会理事長



片岡正徳
日本武道館事務次長

■講義:植芝守央特別講師



開講式後、大道場に場所を移し、植芝特別講師が、合気道の歴史や概要を映像で紹介した後、植芝盛平開祖の教えや植芝吉祥丸二代道主の活動に触れ、現在の発展にまで導いた素因などを説いた。また、合気道の教育効果について触れるとともに、合気道は上達度に応じて差はあるが、相手の立場に立ち、相互理解と相手を尊重する気持ちを忘れずに取り組んでほしいと呼びかけた。

最後に植芝特別講師自ら、立ち技や座り技を披露した。

■実技「中学校授業への導入について」:金澤威講師

金澤講師が、教員の参加者と連盟所属の参加者を生徒役に見立て、礼法や構え、体さばきや後ろ受身、角落しや小手返しについて



て、授業で行う際の指導の留意点を交えて実技指導を行った。

学校における指導では、行っている動作の意味合いを説明して示してあげることや生徒に合わせながら手順を追って指導することが大切であると説いた。

■講義「外部指導者の心構え」：立木幸敏講師

国が推し進める「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインの主な内容」について、長時間の指導が競技力向上につながるわけではないことや部活動の教育的意義はあるがやりすぎは良くないことなどを解説。今後は、より一層、地域連携を図るため、外部指導者と学校側の役割を明確にし、共同体制の構築を図ることが重要であると説いた。また、各年代（エイジ）に応じた指導を紹介するとともに、国際武道大学の学生を対象に行った合気道授業実践例を紹介した。

2日目（11月2日）

■実技「中学校合気道指導法①・②」：

梅津翔講師、中村仁美助講師

初心者の参加者を対象に、中村助講師が後ろ受身と角落し、小手返しの指導を、梅津講師が座技呼吸法と四方投げ裏、小手返しの発展の指導を行った。中村助講師から、後ろ受身の際、手を使わずに背中から吸収することを心掛けるために、相手にタオルを投げてもらい、それを受け取った状態で転がる取り組みなどの紹介があった。



梅津講師による指導



中村助講師による指導

■協議・発表「全国指導者研修①」：尾崎响講師

尾崎講師の進行で「学校要請に応じられる指導者の育成—指導者の心構え、倫理観等—」をテーマに、連盟所属の参加者を6班に分け、班ごとに意見交換を行い、テーマを決めて発表した。「外部指導者の活用を学校側にどのように働きかけていくか」、「指導者は道場指導との違いを認識する必要がある」といった課題や心構えなどについて発表があった。



尾崎講師による進行



テーマ発表のための検討

■講義「主体的な学びを促すアプローチ」：園部豊講師

グループワークを通じて、学習者の主体的な学びを導き出すポイントを模索しながら、実践につなげていくことを目的とした講義が行われた。主

体的な学びを促す4つのアプローチとして、「指示」、「提案」、「質問」、「委譲」があり、それぞれのアプローチにより指導者と学習者にかかる意思決定の割合が変化することを紹介。心理的に安全な状況下で新しい指導スキルを身につけるため、班ごとに決めた指導内容をもとに「指示」と「質問」を使い分けながら練習するマイクロコーチングを行った。

■実技「中学校合気道指導法まとめ」：日野皓正講師

まとめとして、角落しや小手返し等の指導が行われた。座技呼吸法では、取りは身体の軸を保つこと、手のひらを開いた状態で行うこと、受けは肘を着かず、頭は少し上がった状態から左右に転がることなどのポイントが示された。



日野皓正講師による指導

■模擬授業：佐藤貴講師、梅津翔講師、中村仁美助講師

佐藤講師が高校2年生を想定した模擬授業を行った後、本研修会で初めて合気道を経験した2名の参加者が模擬授業を行った。黒井南々子氏（東京）の授業では、中村助講師が外部指導者役として加わり、後ろ受身の指導を展開した。また、高木昂星氏（東京）の授業では、受身がなぜ必要なのかを生徒自らに考えさせる内容として手押し相撲を、また、どのようにしたら力を大きく加えずに相手のバランスを崩すことができるかを感じてもらった内容として小手返しの指導法を展開した。



黒井南々子氏による模擬授業

3日目（11月3日）

■協議・発表「全国指導者研修②」：林典夫講師

林講師の進行で、参加者2グループが事例発表を行った。

はじめに高知県合気道連盟と切詰英里氏（高知）が、昨年、盲学校で実施した事例を紹介し、合気道は視覚不自由な者も相手の力を感じることができるので適していると報告した。次に加藤善一氏（東京）が道場と学校教員としての立場の両面から経験した事例や課題、感想を述べた。



林典夫講師による進行

閉講式では、沢登英徳日本武道館振興課主事兼課長補佐、林合気会常務理事がそれぞれ主催者挨拶を行い、全日程を終了した。